

令和4年度 大津市立平野小学校 学校評価書

【評定】 3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった

大項目	中項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
			小項目評定	中項目評定	中項目評定	意見、提言等	
I 学びの充実と創意ある教育活動	主体的・学対話的	① 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めている	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 今年度で開催された「学校体育研究発表大会」への参加を契機として、教職員全員で「主体的・対話的で深い学び」を活用した授業改善を行ってきた。そのために校内での研鑽や外部講師の招聘を活用し教職員の研修も実施した。その授業づくりの中で、ICTを活用したり、学級集団作りを促進したりした。今年度までの学びを生かして来年度以降も教職員の研鑽を深め、子どもの学びへとつないでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、学級集団を作り、子どもたちの学びへとつなげていく。それによって、子どもたちへの意欲が広がっていくと思います。 校内研究を実践されていることは素晴らしいと思います。 教職員全員が本件に一人丸となって取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を3年計画で考え、今年度含めて2年間の学びの成果と反省を次年度につなげて、体育科だけでなく、全ての学習活動に学びを生かしていきたい。計画・実行していきたい。そのために今年度までの振り返りを丁寧に行い、次年度当初には全体計画を教職員全体で共有し研鑽を深められるようにしていきたい。
		② 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図るため、ICTを活用し授業の工夫・改善を行っている	3				
		③ 主体的・対話的で深い学びを追求する研修を実施し、授業に取り入れている	3				
	道徳教育の充実	④ 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動を実施し	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 道徳では、様々な学校行事や特別活動、友人との関係など、実生活等との関連付けをしながら、道徳的実践力が高まるように努めている。 学年部で年間指導計画を意識し、児童の実態を考えながら授業を行ってきた。研修を行うことで、授業や評価の際に大切にすることを共通認識できた。 道徳科の授業公開や、各通信を利用して、各学年の道徳実践の様子を保護者に伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> お茶の間での会話は大切だと思う。 いじめはないとおもいます。とても素直で大きな子どもたちばかりで大好きです。このまま伸びてほしい。 学校行事、特別活動、友達同士の関係、家庭との結びつき等いじめを許さない態度をしっかり身に付けてほしい。 いじめを許さない、生命を尊重する心、他人を思いやる心を育むため何が必要かを教えてやってください。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳では、すべての学校教育活動から道徳的価値を醸成の段階に即して児童自身が自覚し、それに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、主体的に道徳的実践力を身につけるよう努めていく。来年度も学年部を中心に指導案の検討をし、授業公開を行っていく。研修をそれぞれの教員の学びの場として、教員個人の力量アップにつなげていきたい。
		⑤ 道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流を行っている	2				
		⑥ 保護者等への道徳科の授業公開を行っている	3				
	体力づくり	⑦ たくましい心と体を育てるための魅力ある授業を工夫改善している	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究をもとに学年の単元計画を考え、それを各学年部で共有することにより、単元を細かくイメージした系統的な学習を仕組むことができた。 研修を行うことで子ども達の目指すべき姿が共通認識できたり、指導でのポイント、安全面についての配慮を考えたりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体づくりは、家庭でも大切だと思う。 元気で丈夫な体づくり、授業に工夫しながらの取組の成果を得られたとのこと。 運動を確保する場所等の問題点がある。 全体的に朝から元気に走り回っている子供も多くなっている。 学校体育研究発表大会の成果を今後踏まえ、実践してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修の成果を得られることができたので、今年度までに得た研究の学びを来年度以降にしっかりと引き続き、研究を行っていく。 運動を確保する場所に限りがあるので、その中でもできる活動を考えていく。
		⑧ 運動実践に取り組んでいる	2				
		⑨ 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲を育成している	3				
	(組織的・計画的)	⑩ 学力向上を目指した指導体制・指導方法を工夫改善している	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度全国学力学習状況調査の結果は、全国の平均正答率と比較してみると、国語、算数ともに全国平均を大きく上回っており、理科についても全国平均並み(若干上回る)となった。 9月より、1～3年生にもタブレットが配備されたため、全学年において昨年度から取り組んでいるICTを活用した学習を進めている。また、サイバー犯罪防止教室等の情報モラル教室を定期的に開催し、学年の発達段階に応じて児童がタブレットを適切に使用できるよう指導している。 今年度各学年の児童の実態や学習内容に応じて、学校生活支援員4名を配置し、きめ細かな対応をすることができた。さらに、ステップ学習(特定の児童に対する学習の個別対応)を拡大し、子に応じた指導を充実させた。 昨年度導入したweb次席連絡システムのハード面のだけでなく、教職員一人一人の働き方に対する意識を改革するため、働き方改善シートを導入し、業務の進め方を見直しきっかけをつかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が型にはまらず、熱心に指導されている姿を拝見しました。 国語、算数、理科が全国平均を上回っている。 全学年でタブレットを使用できるようにしている。 すべてのタブレットがまったく同じであるので、タブレットが自分のものであるという工夫ができないか。 わかりやすく工夫された教育ができています。 今後の学校改善に向けての方針通り、実践してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査の結果が良好であったことに満足せず、導入された一人一台のタブレットを「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業にどのように活用していくのか、学年の発達段階や実態に応じた具体的な方策を全職員で知恵を絞り確実に推進していく。 「働き方改革」=「業務時間短縮」ではない。学校行事の見直しや会議内容の精選および適切な時間設定を進めながら、一人一人の教員の働き方意識を改革し、質の高い業務を形成する。
		⑪ 能力及び組織的な教育力の向上に努めている	3				
		⑫ 働き方改革の取組と教育活動の質の改善に努めている	2				
体験活動	⑬ 各種体験活動を計画的・効果的に教育課程に組み込み、充実に努めている	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 1、2、3年生の農業体験活動(サツマイモ・トマト・ピーマン・オクラ・大根など)をはじめ、3年生の昔の暮らしの体験学習(琵琶湖博物館見学や洗濯体験など)、4年生の講師を招聘しての障害者理解教育(信楽焼体験活動、フローティングスクールによる琵琶湖学習、6年生の現地視察を伴った平和学習(修学旅行)など、各学年に応じて充実した体験学習を展開することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業地が盛んになれば問題も出てくると思う。 郊外でのいろいろな体験学習の楽しさあり、喜びあり、子どもたちにとって大切な素晴らしい校外学習であったと思う。 体験学習は、それぞれに素晴らしいと思われず。創意工夫し実践してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年によっては、講師招聘の日程が重なるときもあったので、今後調整していく必要がある。 	
	⑭ 読書環境の整備に努め、発達段階に応じた多様な読書活動への支援を行っている	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の活動を通して、おすすめの本を紹介するポスターを作るなど、たくさん本を読んでもらえるように環境を整えた。 大津市図書館の方や学校職員で、古い本や傷んだ本の除籍作業を行うことで、最新の本や人気のある本を購入し配架することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字離れは、声に出して本を読むことも必要でしょうか? 子どもたちが読んだ本を大切に元の場所へ戻す。破れを修復する等整備の必要性をその作業が大切。 必要な図書はクリアしているのか? 一人一人が常に読書ができること。そのための環境づくりやバーションの準備。 大津市図書館の方や他団体と交流を深めて、改善案を整理し実践してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、閲覧室の環境整備を主にを行ったので、来年度は図書室の環境整備が必要である。 子どもたちが読んだ本が、元の場所に返却されずバラバラになっているので、分類や作者などの目印をもう少し増やす必要がある。 	
II 育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携	⑮ 保護者の子育てに対して、積極的支援している	2	2	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染拡大防止のため、学習参観等保護者が児童を参観できないときは、一週間に一度学校で子ども達の様子を学校ホームページで発信する等できる限りの情報提供を行った。 コロナ禍のため、保護者を体育館等に集めて教育活動について校長から直接お話しすることが難しい中、保護者会主催の「HIRANOカフェ」等を活用し、学校運営等について校長の思いを伝えることができた。 関係機関と連携し、密を避け、学年ごとに分けて避難訓練を行っている。 11月の不審者侵入を想定した避難訓練では、膳所駅前交番所に協力を仰ぎ、児童が休み時間大勢校庭で遊んでいる状況において不審者が侵入した場合を想定した訓練を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 滋賀県の音楽コンクールに参加している児童がいる。案内が教室に貼って有びつくりした。 家庭、地域との連携は密になってほしい。コロナに気をつけながらのことですが、 防災、防犯、安心、安全な生活の確保、連携を密にしてコロナにも注意を払っていく。毎日の生活を守ることの大切さを身につける。 社会情勢もあるができていないとは言えない。 地域の人々とのつながりを大切に、地域全体で子どもを見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの感染症法上の位置付けが4月から変更されることも視野に入れ、学校生活における新たなコロナウイルス感染防止対策について協議を進め、児童・保護者にとって安心・安全な学習環境を構築していきたい。 児童の家庭環境や保護者の子育ての悩みは千差万別であるため、保護者の悩み等の訴えを丁寧に傾聴し、その思いを共有することはもちろん、場合によっては関係機関に繋ぎ、保護者の子育てを支援する。 児童が自ら考え安全な場所に避難できるよう、休み時間や掃除時間等の授業中以外の時間に災害が発生した場合を想定した避難訓練を実施する。
		⑯ 子どもの校種間交流や教員の出前授業・保育を実施している	2				
		⑰ 校種間の合同研修会や授業公開を計画し、実施している	3				
III 組織的体制の充実	特別支援教育の充実	⑱ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用を行っている	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症防止のため、校種間の子ども同士の来校したり、来園したりする交流は滞っている状況である。就学前の園児が休み時間などに学校の様子を見に来る機会がある。5年生が新1年生に向けて、プレゼントを作ったり、メッセージを書いたりしてつながりを作るようにしている。 今年度は、全国体育研究大会滋賀大会の実施に伴い、幼稚園の活動の様子を見学したり、小学校の研究会に幼稚園の先生に来ていただいたりすることができた。 6年生の児童の様子を中学校の教諭が定期的に観察・懇談し、「中1ギャップ」の未然防止に努めている。 今年度から配置された理科の専科教員は、中学校の理科の授業を参観し、中学校教員と意見交換をするなど、授業の質の向上に努めている。 保幼小の円滑な接続のため、入学後のカリキュラムを柔軟にするよう、見直しを行っている。 学校づくりプロジェクトにおいて取り組んだ「膳所駅歩道橋パネル設置」には、本校児童の作品だけでなく、平野幼稚園園児の作品も展示することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 近くに幼稚園が存在し、環境がいいと思う。 保幼小の連携、とても素晴らしい。 学校夢づくりプロジェクトの取り組みは、素晴らしいと思う。今年度は、平野幼稚園の作品もあり、夢いっぱいです。膳所駅歩道橋が夢であふれている。 保幼小の園児が、小学校に行くことが楽しみになれる取り組み。 保、幼、小、中の子どもの交流は、非常に大切であると思います。今後も積極的に取り組んでください。 先生方も授業参観等で研修の機会を設けて意見交流等実施してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校近隣の園が、休み時間に学校の様子を見に来られるような機会は継続して設けていきたい。 今年度、研究大会のために授業公開などで交流の回数を増やしたことは、子どもの理解にもつながる良い機会になった。校種間の活動の様子を交流する機会は、今後も継続していきたい。 入学後のカリキュラムは幼稚園・保育園などの意見も聞きながら、今後も毎年見直しを行ってきたい。 中学校と連携し、ICTを活用した授業改善や6年生の児童を中心にした生徒指導による連携強化を推進する。 学校夢づくりプロジェクトに参加する学校園を高校にまで拡大し、近隣学校との連携を強化・発展させたい。
		⑲ 家庭・地域・関係機関と連携しながら指導を進めている	3				
		⑲ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用を行っている	2				
III 組織的体制の充実	特別支援教育の充実	⑲ 組織的・計画的な特別支援教育体制を確立している	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 指導主事を招聘した個別の指導計画の研修を実施することで、個別の指導計画の重要性について、少しは担任の意識が高まった。しかしながら、個別の指導計画の書きぶりについては、まだ、一般的な書き方にとどまっている。 学体研の関係で、研究主任から特性のある児童への配慮を常に発信することにより、組織対応ができてきた。 教頭・子ども支援・別室担当の教諭が中心になって特性のある児童について関係機関と連携をはかってきた。今後は、特性を持つ児童がより楽しく授業に参加し、活動・習得していく姿を目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個性を大切に成長してほしい。 関係機関との連携を密にしての取り組みすばらしいです。 個人の能力に応じた指導計画を充実させることで個人の力に活力が出てくるように。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内的には、管理職のリーダーシップで、より計画的組織対応ができるように、校内特別支援委員会の継続的で積極的な働きかけを行ってきたい。 関係諸機関に対しては、管理職・特別支援教育コーディネータの協力のもと、担任が個に応じた合理的な配慮や支援策の作成と保護者も歩み個別の指導計画の作成に尽力をつくる環境整備をしていきたい。今後も、特性を持つ児童の学校生活が有意義になるよう努めていきたい。
		⑲ 関係機関と連携した教育相談の充実を図っている	3				
		⑲ 児童の学校満足度	3				